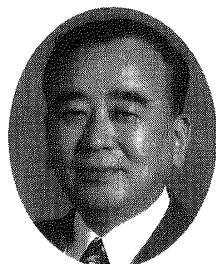


会長メッセージ

会員の会員による会員のための JSQC を目指して



東京理科大学 教授
狩野 紀昭

会員の研究・業務になくてはならない存在をめざして、次の活動を展開していきます。

1. 30周年記念事業の実施

品質管理推進功労賞の創設は、本学会が標榜する産学協同の充実に向けた象徴として意義深いと考えています。今年度は、この賞の継続に向けた礎作りに向けて改善を進めていきます。

ホームページを一新させました。Webを通じた会員サービスの拡充のための特別委員会を発足させました。2,000人を越える会員のメールアドレス登録が力を発揮するものと期待しています。また、品質管理相談室の開設、若手研究者への研究助成の創設などについても計画しています。

これらの事業に必要な資金確保のための募金は今年度も継続します。皆様のご理解とご協力により募金総額は2,100万円(2001/12現在)を越え、当初計画した事業の実施に対して、一応の見通しをつけることができました。しかし、特に若手への研究助成をそれなりのレベルで数年間にわたり実施していくなどの事業のためには正会員の皆様へ「もう一声」の想い、なきにしもあらずです。

2. 品質危機克服へ向けた情報発信、国際交流

30年度の会長就任講演の際に、「品質危機」という言葉を使うことに躊躇しましたが、今日、何も抵抗を感じなくなってしまったことは誠に悲しむべきことです。この点に関して昨年度はNHK番組、品質月間テキストなどを通じて情報発信を行いました。今年度もより多くの場で発信していきます。

本学会のピーク時(1992)の正会員数は3,354名

でした。この数の回復へ向けた願いを込めて、語呂合わせから“皆さん(33)来いよ(54)キャンペーン”を開始しました[底数:2,598名(2001/4)]。お陰様で30年度末の会員数は3,131名まで戻すことができました。会員数の実質的増大につながるように今後とも会員サービスの充実尽力します。特に近年増加しているISO関係会員に対するサービスを強化するとともに準会員の増加に向けた活動も展開していきます。

アジア・クオリティ・シンポジウム(AQS)は、2002年11月16、17日に東京で開催されます。これまで日、韓、台の3学会共催から中国質量管理協会を含むアジアの多くの学会に参加を呼びかけ、アジアにおける情報交換の場として拡充を図ります。さらに、アメリカ品質管理学会(AQS)などの海外関係学会との交流強化にも努めます。

本年度から、これまでの編集委員会を投稿論文審査委員会と編集委員会に分割し、論文審査の充実とともに会員誌部分の拡充を目指します。さらに、研究開発組織の枠組みの検討、社会科学ならびに医療などの立場からのクオリティの進歩発展へ向けた足場作り、サービスなどの質を包含し国際的誤解を招かない学会名称の検討も進めます。

3. 学会員の皆様のコミットメントを

会員サービスの充実、会員と理事会/委員会/事務局ならびに会員相互間の交流が必要です。「会員の会員による会員のためのJSQC」を目指して皆様のコミットメントを期待しています(会長直結ホットライン・メールアドレス: hotline@jsqc.org)。